

総合計画市民会議 グループを通じた共通趣旨の議論について（自治）

【市民自治・住民参加 ~意義、パートナーシップ~】

自治とは何か、住民参加の必要性・動機は

- ・住民意識の高まりに伴う、行政には見えないところの提案
- ・納得性を高める

パートナーシップ

- ・市民と行政で連携して実行していく。
- ・行政で行うべきものと、市民と協働で行っていくもの。
- ・最終責任は誰がとるかを明確にする必要

【市民自治・住民参加 ~参加・参画意識、市民間の意見調整~】

参加意識を高める必要

- ・働いている人の参画意識を高めることが、これからの自治の基本。
- ・町内会への参画を高める仕組みづくり
- ・参画の自覚が大事であり、行政の意思決定の説明責任を果たし、市民意識をレベルアップする仕掛けが必要

住民同士の意見調整、話し合いのルール、プロセスが必要

- ・地域の利害調整も自治の役割
- ・まずは時間をかけて議論する。知らなかったことを知る機会、新しいアイデアが出る機会を確保し、折り合いをつけるプロセスが必要。様々な情報や専門化の意見を聞くことも必要。

【市民自治・住民参加 ~仕組みづくり~】

情報公開が必要

- ・情報公開を早い時点で行い、自治に結び付いていくことがポイント。

情報、教育、人材、資金をサポートする中間組織、グループ組織のネットワーク化が必要。

- ・中間組織がもっと強力に、様々なかたちで出てこないとも市民参加というものが具体性をもたない。
- ・市民活動支援センターも、各区に、もっと機能的に整備されるべきである。
- ・グループは単体では力になりにくいので、ネットワークにより、市民参加の力になっていく。

計画作りだけでなく、公の施設の管理面などでも市民参加を進めて行く必要がある。

意見集約の仕組み

- ・町内会等を活用、活性化して、問題解決のための疑問や意見の集約をする。市民行政間の意見交換や合議の機会をつくる。決定の理由説明を明確にしていくなどのプロセスを経ることにより解決に向かう。

解決策の実行を評価する方法が必要。

- ・その評価は、問題は解決したか、社会がどう変わったか、成果が見えるもの・見えないものがどのようになっているか。そして必ずフィードバックする。評価の際には、実行の主体と評価主体が誰だったのかが明確にしないとうまくいかない。

総合計画市民会議 グループを通じた共通趣旨の議論について（自治）

【市民自治・住民参加 ~区、自治の範囲~】

自治における地域は、どのような単位で考えていくかが重要。

- ・小さな地域の話しを全市の議場では議論できない。区の自治が重要。
- ・各区の予算編成も、市民活動からのアイデアから予算がつくような方法も必要。
- ・区が予算面も実行力をもつべき。